

## 沖縄事務所開設から3年（その1）

2017年2月、平和フォーラム沖縄事務所は、辺野古新基地建設反対の闘いに参加し、闘いを強化するために名護市に開設しました。これまで平和フォーラムは、5.15 平和行進への全国動員、海上での闘いに対しては抗議船購入のためのカンパのよびかけを実施し、新基地建設反対、高江ヘリパッド建設反対など積極的に参加してきました。

民意や人権、地方自治を無視する安倍政権の強権、米軍による人命軽視の訓練による事件、事故など、沖縄県民が抱える問題は他県では考えられない問題が山積しています。国土の6%程度しかない小さな島に米軍専用施設が70%以上も集中、駐留し、事実上の米軍植民地化にある状態が、戦後75年が過ぎようとしているにもかかわらず、何ら変わることなく続いています。沖縄県以外への基地負担を全国的な議論で解決すべきだという声も高まっています。

平和フォーラムはこうした情勢の中、まずは沖縄の闘いの原点ともいえる反基地の闘い、そして情報を各都道府県のフォーラム組織の仲間に伝達することを主として事務所の開設をしたと思います。微力ではありますが、この3年間私自身もこうした闘いに参加できることは、非常にやりがいのある任務だと肌で感じていました。

この3年間の闘いを、「沖縄だより」100号という節目にあたることから、振り返って今後の闘いの糧にしたいと思います。

### 弾圧

沖縄事務所開設した当時は、沖縄平和運動センター山城博治議長が高江ヘリパッド建設反対闘争で不当逮捕され長期拘束されていたさなかでした。刑事法研究者や国際的な人権擁護団体のアムネスティ・インターナショナルが釈放を求める緊急声明を発表し、市民団体が保釈を求める署名を地裁に提出するなど、高江の闘いと反弹圧の闘いが高揚していました。

政府、警察、検察、裁判所の総ぐるみで、病を抱えていた山城さんに対する殺人的な弾圧に抗議し、釈放、無罪獲得にむけた全力でのとりくみでした。その後3月18日に山城さんは5か月ぶりに釈放され、那覇拘置支所の前に姿を現すと、駆けつけた仲間たちから一斉に歓声が上がりました。山城議長は「みなさんと再会できてこんなにうれしいことはありません」と感謝の言葉を何度も口にしていました。

### 辺野古新基地建設反対の闘い

2017年3月25日、3500人の市民が結集した辺野古ゲート前県民集会に、翁長雄志沖縄県知事(当時)も参加し、「(承認)撤回を力強く、必ずやる」と表明し、「政府は占領下の銃剣とブルドーザーと全く同じ手法で、あの美しい大浦湾を埋め立てようとしている」と政府を批判し、県民総ぐるみで闘うことを訴えていました。翌週の4月1日は、座り込み闘争開始から1000日で、雨の中にもかかわらず600人が座り込みに参加しました。ちょうどこの日は、県の岩礁破碎許可が切れたことに対して、防衛省は「県に許可を求める必要はない」と、名護漁協が漁業権を放棄したことを理由として法律を勝手な解釈し問題になりました。その他時系列で

2017年4月25日:汚濁防止膜を固定するためのコンクリートブロック228個を投入。

2017年5月27日:米軍キャンプ・シュワブ前で「辺野古新基地建設阻止！K9護岸工事を止めろ！環境破壊を許さない県民集会」

2017年7月22日:辺野古「人間の鎖」に2000人。重久真毅警備部長が「排ガスを吸いたくなければゲート前に来るな」と発言。

2017年8月12日:翁長県知事を支え、「辺野古新基地を造らせない県民大会」が奥武山陸上競技場で開催。45000人が参加。この大会のスローガンは、「地方自治と民主主義・人権を守るため、この不条理に全力で抗い続ける」

2017年10月7日:第1土曜日県民大行動を開催することを決定。辺野古現地闘争の強化がねらい。毎月1000人規模をめざすとしている。

2017年10月25日:護岸工事で着工から半年となる10月25日キャンプ・シュワブ沖でカヌー18艇と抗議船8隻141人が、「辺野古・大浦湾をカヌーと舟で埋め尽くそう！新基地建設を許さない海上座り込み」と、抗議活動を展開。（次号に続く）